

JAPAN FEDERAL MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION

JMCC NEWS

全医協連ニュース



発行＝
全国医師協同組合連合会

平成 20 年 1 月 1 日発行 No.107

初茜号

特集

第35回通常総会<東京・台場>

[通常総会・懇親会／記念講演会／理事長朝食会]



CONTENTS

◆特集 4

第35回通常総会〈東京〉

[通常総会・懇親会／記念講演会／理事長朝食会]

- 2 年頭所感
小林 照尚 (全医協連会長)
唐澤 祥人 (日本医師会会長)
- 13 新役員組織図
- 14 新役員紹介
- 18 国政に携って——「国会よもやま話」……西島英利
- 20 旅行記——「大河・揚子江を上海より重慶まで遡っての漢詩の旅」—[1]……諏訪求仁雄
- 25 医師協の雑誌から——「京都保事協ニュース」
- 34 全国温泉巡り——「湯涌温泉(石川県)、大丸別荘(福岡県二日市温泉)」
- 36 旬の食べ物紹介——「沖縄、宗像、下関、福岡」
- 38 旅行記——「エーゲ海クルーズ」〈1〉……銚石武一郎
- 42 NUMBERS②——南蛮図……菅原克郎
- 44 寄稿——「尾崎放哉を考える」……赤城 功
- 49 書籍紹介——「川の邊」「五句郎会大全」
- 50 ブロック便り——平成19年度第2回医師協四国ブロック協議会
- 52 水彩の旅——「ぼくのほそ道・スケッチ散歩」〈第1回〉
……大森俊次
- 54 旅のブラックエッセイ——「京の粋を遊ぶ島原遊廓
太夫様は偉いお人であった!」
……松井昭男
- 56 ブロック便り——九医協連「第27回通常総会」
- 60 JMCギャラリー



- 26 [福祉部]
・平成19年「生命保険販売促進キャンペーン」入賞者の声
・平成19年「生命保険販売促進キャンペーン」表彰式
・全国医師協同組合連合会LICメンバー
・休診共済会
・全医協連取扱い保険商品のご紹介
・全医協連取扱い保険商品一覧
- 46 [購買部]
・平成20年JMCキャンペーン特選商品のご案内
- 58 理事会・部会だより／部会員・調査研究員一覧／マンガ
- 63 歌壇・俳壇／四季のことば／編集後記



表紙写真

北国の冬は寒さに先駆けて日中の時間が急激に短くなることで始まる。12月に入ると夕刻4時ごろには薄暗くなる。雪が積もり寒さの厳しくなる1月になると徐々に日脚が伸びて寒さの中にも明るさが増してくる。表紙の写真は、里山の夕刻の情景である。殆どモノトーンに近い風景の中に微妙な階調があり、あたかも山水画の中のような雰囲気となる(盛岡北郊にて)。

写真提供(表紙、目次): 谷藤泰寛(いわて医師協)



特集

第35回通常総会

通常総会経過

平成19年10月21日(日曜日)午前9時30分より、港区台場のホテルグランパシフィックメリディアン東京(パレロワイヤールC)で開催されました。岩田総務担当理事の名司会により会は始まり、鮎川副会長の挨拶の後、組合表彰に移りました。

福祉部は伸展掛金及び伸展率を考慮して次の五組合を表彰しました。

- 宮城県医師協同組合
- 大森医師協同組合
- 京都府病院協同組合
- 滋賀県医師協同組合
- 下関医師協同組合

引き続き購買部は年間の「直接供給斡旋高及びCOP商品斡旋高、JMCキヤンペーン商品斡旋高等」に基づき、購買部への寄与等も勘案し五組合を表彰しました。

新潟市医師会協同組合

京都府病院協同組合

北九州医師事業協同組合

大分市医師事業協同組合

鹿児島県医師協同組合

次に広報部として全医協連ニュースの内容充実にも多大な貢献をされた三名の先生に、感謝状と金一封を贈呈しました。

山形県医師会協同組合・金子阿岐夫先生
いわて医師協同組合・山田拓雄先生

北区医師協同組合・吉住五郎先生

来賓としてご出席賜りました日本医師会副会長宝住先生より、日本医師会唐澤祥人会長からのご祝辞を頂戴した後、全国中小企業団体中央会瀬戸事務局長からご祝辞を頂きました。その後、東京都医師協同組合連合会 木住野会長を議長に選出し議案審議に入りました。議事は第一号議案・平成18年度決算関係書類等の承認を求める件、第二号議案・平成19年度事業計画案並びに収支予算案の承認



退任役員表彰



組合表彰 福祉部



組合表彰 広報部



組合表彰 購買部

を求める件は賛成多数で可決されました。

第三号、第四号、第五号議案は一括上程され満場一致で可決されました。続いて第六号議案も可決されました。

第七号議案は役員任期満了に伴う選任の件で、理事20名、監事3名、員外監事1名が推薦され、この件も満場一致で可決されました。

こうして議事はスムーズに終了し、今回退任される7名の役員に対し感謝状と記念品を贈呈しました。退任役員を代表して、8期16年間絶大なる貢献をなされた木住野全医協連副会長が謝辞を述べられました。次に8名の新しい役員を紹介と員外監事の紹介の後、来年の通常総会の開催地である名古屋市医師会協同組合・早川理事長よりご挨拶があり、最後に全医協連鮎川副会長より閉会の

辞が述べられ、会は滞りなく終了しました。

(文責：総務部担当理事 長野幸雄)

総会挨拶

全国医師協同組合連合会
副会長 鮎川 魏



全医協連 鮎川副会長

皆様おはようございます。本来なら永井会長がここでご挨拶するところですが、

司会の岩田総務から話がありましたように、今朝体調をくずされて、急遽私に代わりにご挨拶することになりました。この一年間はご承知のように、大きな問題が全医協連にございました。一つには中協法の改正がございました。それに伴いまして定款の改正が余儀なくされるということがございます。これにつきましては、定款改正委員会を立ち上げまして十分に検討してまいりました。そして最後には中央会にも審査していただいて本日の重要な議案として提出していただきますのでよろしくご審議いただきたいと思

います。もう一つは、全医協連が全面的に行っておりま

共済制度」、これは休業保障の制度ですが、これと「あんしん君」、これは生命保障ですが、この二つの制度が保険業法の改正によりまして、存続することができなくなりました。つまり中止せざるを得ないということになりました。休診共済会は大きな団体ですが、これをいかに存続させていくかということにつきまして、さくら法律事務所の後藤弁護士、この方は公認会計士でもありますけれども、そういう方を中心はどういう形でこの休診共済会が存続していくのか、ということを検討していただいております。もちろん、いろいろなご意見もございませので、別の弁護士先生、安田先生にもセカンドオピニオンをしていただいで検討しているところでございます。

それと先程申しましたように、中協法の改正から、員外監事が必要になってまいりました。監事の権限の強化というところでございまして、その員外監事といったしまして、日本医師会からこのたび宝住先生をお願いするように議案の役員改選の中に出しておりますので、十分ご審議いただきたいと思っております。永井会長のほうから、「この会に欠席したことを重ねてお詫びしてくれ」ということでございしますので、よろしくご審議いただきたいと思っております。

祝 辞

日本医師会会長
からさわ よしひと
唐澤 祥人



日本医師会 宝住副会長

全国医師協同組合連合会
第三十五回総会をお迎えに
なるにあたり
まして、日本
医師会を代表
して、一言お祝い申しあげます。

全国の医師協同組合におかれましては、組合員の多様な生活ニーズに応えて、医療経営の安定、医師福祉の向上に大きな成果を挙げてこられました。この場をお借りしまして、厚く御礼申しあげます。

さて、昨年成立しました医療制度改革関連法は、言うまでもなく財政再建策を軸に構成され、国民医療を支える国民皆保険制度、地域医療体制に対して深刻な影響を及ぼすものと思われまます。与党は、高齢者医療費の負担増を凍結する方向で見直しを検討しておりますが、一時的なものでない負担増の見直しが重要であると考えております。

また極端な医療費削減によって、地域医療、国民医療の危機的状況は一刻の猶予もならない事態に立ち至っており、国民の不安は日増しに増大しつつありま

す。国民が必要としている医療を実践し、不安を除去していくことがわれわれに課された使命でありまして、国民が安全で質の良い医療を受けられるよう政府・与党をはじめとして多方面に働きかけるところであります。

皆様のより一層のご支援をお願い申し上げます。

なお、永らく低迷の続いた経済は明るさを増してきたところではありますが、医療機関の経営は厳しい状況におかれたままであります。

このような状況にありまして、医師協同組合は、地域医療の現場にある医療機関にとりまして、誠に力強い支えとなっているところでもあります。今後とも、医師福祉のため宜しくお願い申しあげる次第であります。

最後になりましたが、貴連合会の今後ますますのご発展を祈念するとともに、貴連合会の役員員の皆様並びに本日ご列席の皆様のご健勝と、総会の成果が実り多いものとなりますよう期待いたします。お祝いの言葉といたします。

懇親会

懇親会は午後6時30分から、パレロワイアルにて238名の参加者により盛大に開催されました。司会者により先程講演された村上教授の著書の紹介に続き、永井会長の団結・友情・チャレンジという内容の挨拶の後、日医今村聡常任理事よりご祝辞を頂戴しました。その後、祝電



全医協連 永井会長



日本医師会 今村常任理事



全医協連 平井監事



クラブジャズミン(懇親会)

の披露があり、全医協連平井正晴監事による乾杯の音頭で宴会が始まりました。食事はフランス料理で、皆さん大いに堪能されたようです。他医協との情報交換、交流にも有意義な会でありました。アトラクションは「クラブジャズミン」による、和楽器の琴と、洋楽器のフルート、バイオリン、チェロやシンセサイザーを組み合わせたアンサンブル演奏でした。「シバの女王」・「林檎の樹の下」・「アルハンブラの思い出」・「コーヒールンバ」など懐かしい曲が多く、会は楽しく過ぎていきました。最後に全医協連小林専務理事の挨拶で、無事終了しました。その後、二十九階に場所を移動し二次会が行われました。窓の外を見ると東京タワーが赤く輝いて見えました。大会の夜景を楽しみながら、楽しい語りいで夜が更けていきました。

(文責：広報部部会員 河辺忠郎)

記念講演会

遺伝子ONにして 可能性を引き出す(要旨)

筑波大学名誉教授 村上和雄先生



講師：筑波大学名誉教授
村上和雄先生

私は大きな興味を持って「心が変われば遺伝子の働きが変わるか？」ということを研究しております。

「できる」と思えば遺伝子はオンになり可能性は広がります。4年前から思いがけない出会いで吉本興業と「知的エンターテイメント」の追求ということで、吉本興業芸人さんと糖尿病の患者さんたちにご協力をお願いしましてある実験を行いました。糖尿病の患者さんはストレスを受けると悪化するといわれていますが、陽性のストレスを与えれば血糖値は下がるのではないかと考え「糖尿病とお笑いの関係」を検証したかったのです。

1日目は、糖尿病患者さんを昼食前に採血し、食後直ぐに医学部の教授の「糖尿病のメカニズムについて」という講義をした後に採血しました。退屈な話です。終了後の患者さんの平均血糖値が123mg/dlに上昇しました。2日目は漫才の「B&B」のお二人の公演です。公演時間帯、採血のタイミングは前日と同じ条件で行いました。思った通り大爆笑の連続でした。血糖値を測定しますと77mg/dl、前日に比べますと46mg/dl下がり、ほとんどの患者さんの食後血糖値は大幅に抑えられ

たのです。この成果を、ロイター通信が取り上げ世界中に発信され、大きな話題となりました。糖尿病患者さんの治療薬が笑いに：医療の質を変えることが出来るかもしれないと夢が膨らんできました。薬は効果があるから副作用もある。「笑い」は、副作用の無い薬になるかもしれない。吉本興業と「笑いを誘うDVD、ビデオ」を作成しました。笑いが少ない人が病気になるのか、病気になったから笑いが少なくなるのか、桂三枝さんに「こんなオモロイDVD・ビデオが出来ました」とお話し「三枝さんもこのプロジェクトにご

広島国際平和会議 〇〇六共同宣言 一〇〇六年十一月一日

私たちはここ広島に集いました。この地のもつ救済の精神と平和を希求する情熱を再び高めたいという思いからです。それは核のない世界を実現するためです。

核兵器による破壊に直面した、広島のみとは、戦争の恐怖を経験した後、新たな解決策を求めました。それは平和を実現するための対話の最も中心となる場所、そのような場としてこの街を復興することでした。私たちは、この街がもつてくる精神、救済、ということ、そして報復はしないということ、このメッセージに人種すべてが注目して欲しいと希望します。

広島、この世界でもっとも悪しき破壊の苦痛が現実にもたらされた地。ここはひとりの人間が自分自身の国家、都市、団体を優先するのではなく、よりグローバルで、人間らしい共同体をよびこの世界全体を優先したい、そんな発想に満ち溢れた場所です。

私たちはすべての人々に宣言し、訴えます。

あなたの隣人はもちろんです。それがあなたの敵であったとしても、彼らを破壊すること、それはあなた自身を破壊することです。

健康、教育、人権、青少年の育成、自然環境、これらは危機がもたらされる時、それがいかなる場所でも起こって来たとしても、その影響はすべての場所へ起こります。

協力していただけませんか？」と言ったら「協力します」とのお返事でした。1回だけでなく、どれくらいの期間笑いを提供すればという成果も必要です。健康教室を利用して検証しましたところ、血糖・HbA1cは順調に下がり、患者さんは明るくなり、元気になりましたのでこの研究を継続しています。「笑い」を研究していきますと「人間とは何か？」につきつめられます。笑いに関連する遺伝子があり、私の仮説では、陽気な心が遺伝子のスイッチをオンにし、陰気な心がオフになるということをこれから証明しようと思っています。

私の本来の仕事は、40数年前27歳の渡米で始まりました。日本国内では力が発揮できなかったのが、渡米するという環境の変化が遺伝子をオンにして飛躍的な研究をすることが出来ました。足掛け10年間、アメリカで厳しい環境に身を置いたことが私の財産になっています。この研究生活のなかでも良い出会いがありました。成長ホルモンの研究でノーベル賞を受賞したスタンレー・コーエン先生との出会いが私の研究人生に大きな変化をもたらしました。血圧に関係するレニンに出会い、正体を明らかにするという研究に入りました。日本に帰りましても研究を継続しました。腎臓・血管系だけでなく脳にもあり得ると考えました。東京都食肉センターにお願いして牛から脳下

垂体3万5千個を貰って筑波へ持ち帰り、研究員と学生にも頼み込んで「この皮さえむけば、世界に誇る研究成果があげられるんだ」とはっぱをかけた。もちろんこの研究が成功するという確証はないのですが、私はこのような手法を「ナイト・サイエンス」と呼んでいます。ノーベル賞受賞者の江崎玲於奈博士は「大発見の芽はナイト・サイエンスにある。芽を見つけることは常識を超えたところにあり、それを見逃さずにその芽を育てるのが知性と理性と客観性である」と、物理学の小柴先生も「物理学もやっぱりヤマカンだったな」とおっしゃっておられました。3万5千頭から50キロの脳下垂体を取り出し凍結乾燥して粉末にし、レニンを取り出すことが出来ました。僅か0.5mgであります。正体の解明にどれくらいのレニンが必要であるかという、最低50mgです。不可能な数字であります。その時にニュースが入りました、人のホルモン・酵素を大腸菌から作るという遺伝子工学の幕開けであります。早速、私もこの分野に飛び込みました。まず初めにネズミのレニンの遺伝子を見つけ出しましたが、既にパリのパスツール研究所が先を越していたのです。科学の世界で評価は、一番最初のコメダルのみで銀も銅もありません。失意のうちに、渡欧しドイツのハイデルベルグの酒場で遺伝子解析のトップ・グループの京大の

